

「2学期始業式校長講話」

この夏休みは、天候が不順であった。新聞によると今年の夏期休業中の天候は、日中最高気温 35 度以上の猛暑日は、昨年は大阪で 17 日間続いたのが、今年は 7 月 25 日の 1 日だけ、8 月は 1 日もなく神戸では 6 年ぶり、大阪では 21 年ぶりであった。また 6/4 から 7/21 までの梅雨期間中は、平年の 4 割しか雨が降らなかったのに対し、8 月に入ると一転して毎週のように大雨が降り、台風 11 号が接近した 9. 10 日は 2 日で 242mm の雨が降った。全国的にも 16. 17 日にかけては前線が停滞し、兵庫県丹波市では観測史上最大の 24 時間に 258mm を記録、19. 20 日広島市での大災害では 3 時間に 200 mm 以上 が降ったといわれ、24 日にも大阪池田市で 1 時間に約 100mm の降雨を観測している。

ところで神戸市は花崗岩でできた六甲山とともにあり、1938 年の阪神大水害や 1967 年の水害など、過去何度も広島と同様の水害に見舞われてきた。現在防災の観点から、建物は丈夫になり、道路やダム、河川上下水道などのインフラも整備され、かなりの程度の天候不順に対しては十分対応できるようになっている。しかし最近その想定範囲を超える、天候不順が起こっているように感じる。この原因については諸説言われているが、確定的にいえるものはない。戦前の物理学者寺田虎彦は、「天災は、忘れたころにやってくる」と言っている。この想定外の現象について、今後も起きると考える必要がある。

そこで進化論で有名なチャールズ・ダーウィンは「最も強い者が生き残るのではなく、最も賢い者が生き延びるものでもない。唯一生き残るのは、変化できる者である。」と言っている。いつ、どこで、どんな災害が起きるか分からない、これからの時代を生きていく皆さんには、力強く生き残って生き抜いて貰わねばならない。そのために、変化を恐れず、それに対応して変化できる人になって欲しい。これからどう変化させればいいのかを考えて、実行していくことを願っている。

